

宮沢賢治 年表

いつ		賢治の行動／できごと	賢治の考え方
一八九六年 八月二十七日	誕生	岩手県花巻に生まれる 津波、洪水、地震にみまわれた年	家の職業…質屋
一九九八年	二歳	妹トシ生まれる	石を観察することが好き
一九〇八年	十二歳	小学校六年生「石こ賢さん」と呼ばれる	なんとかして農作物の被害を少なくし、人々が安心して田畑を耕せるようにできないものか。
一九〇九年	十三歳	中学入学 寄宿舎生活 自然災害↓農作物がとれず農民が苦しむ	
一九一〇年		自然災害（洪水）	
一九一四年	十八歳	日蓮宗（仏教）を信仰するようになる	
一九一五年	十九歳	盛岡高等農林学校に首席入学	
一九一八年	二十二歳	農林学校卒業 童話を作り始める	
一九二〇年	二十四歳	研究室へ残ることを進められるが断る	
一九二一年	二十五歳	農林学校の教師となる たくさんの詩や童話を書く 「風の又三郎」 「グスコープドリの伝説」 「セロ弾きのゴーシュ」 「北守將軍と三人兄弟の医者」など	「いねの心が分かる人間になれ」 賢治の理想 苦しい農作業の中に楽しさを見つける。工夫すること喜びを見つける。そうして、未来に希望をもつ。 暴れる自然に勝つためには、みんなで力を合わせなければならぬ。そのためには、たがいによさしい心が通い合っていなければならない。 イーハトーブリ人間がみんな人間らしい生き方ができる社会
一九二二年十一月	二十六歳	妹トシ死去	
一九二三年四月	二十七歳	「やまなし」が岩手毎日新聞に掲載される 上京。東京社で童話の掲載を拒否される	
一九二四年四月 十二月	二十八歳	詩集「春と修羅」を自費出版する 童話集「注文の多い料理店」を出版する	
一九二六年三月 八月	三十歳	農学校を辞める 羅須地人協会を作る 無料の肥料設計事務所を各地に開いて、農村をめぐる歩く	
一九二八年	三十二歳	過労のため肺炎にかかり、病床生活を送る	・理想を語ってもだめだ。自分も農民になつて、人と話さなければ」 ・農家の若者たちを集め、自分も耕しながら勉強する。 ・土とあせの中から新しい芸術を生み出さなければならぬ。
一九三一年九月	三十五歳	石灰の宣伝販売のため上京中に発病、帰郷して病床生活が続ける	
十一月		手帳に「アメニモマケズ」を書く	
一九三三年 九月二十一日	三十七歳	病床生活が続けるかたわら、肥料相談を続ける 容体急変 死去	